

通信コーナー

2015. 06. 01

梅雨お見舞い申し上げます。先月の最高気温は観測史上最高を記録し、真夏並みとなりました。4月は雨の多い日が続き、5月は一足飛びに真夏に突入と変な天候が当たり前になってきています。体調管理をしっかりと、ご自愛ください。

1-3月のGDP（国内総生産）が発表になれば、実額の付加価値の国内合計である名目GDPが年率7.7%増加の500兆円弱となり、インフレを調整した実質GDPも2.4%の伸びと、経済は拡大気味に推移しています。企業業績も今年度さらに売上高、最終利益ともに伸長しており、日経平均株価も2万円を超えの相場です。

円安と株高で景気水準は良くなってきているが、海外で稼いでいる企業が多く、その分が株価に反映されている。もちろん、円安のおかげで輸出の採算は上がっており、それは国内景気を持ち上げていますが、株価が日本経済の実力値をそのまま表しているとは言い難いのです。なぜならば、公的年金の運用機関であるGPIFや日銀が断続的に株式を買い上げています。GPIFは日本株の運用比率を兆円単位で高め、日銀も株価連動のETF（上場投信）を買っています。株価を政府が下支えしていることは間違いなく、一部で「官制相場」と言われるゆえんです。

2015年4月の商業動態統計（速報）では小売業販売額は前年同月比5.0%増の1兆5620億円だった。今年1、2月の実績を上回っており、依然として増勢が続いている。円安のお蔭で、インバウンド（訪日外国人客）が急激に増えている。

内閣府がまとめた4月の景気ウオッチャー調査（街角景気）でも、家計動向関連の現状判断DIが3カ月連続の上昇となり、そのけん引役が小売りだった。インバウンド消費は依然好調であり、賃上げや株高による家計改善の効果も表れているとみられる。急増するインバウンド（訪日外国人客）の恩恵が外食各社にも広がっている。軒並みに昨年の数字を上まわってきており、その効果が地方にも広がってきています。

外国人観光客に対応するために「おもてなし会話」のような想定会話集を作成したり、アレルギーの有無などを尋ねる質問と回答事例を、タイ語やインドネシア語など8カ国語で表示しているとか、静岡市では静岡観光コンベンション協会が飲食店でよく使うフレーズを日本語、英語、中国語、韓国語、タイ語の5カ国語表記の案内板などを作り、楽しみをもい上げるなどして、訪日外国人を軸とするインバウンド需要への対応を図っている。ここしばらくは円安が続いて、観光客は衰えることはないと思うが、円は安い。

いつ風向きが変わるか分からないので、ご用心、ご用心 下さいね。